

読書

「1891年の日本の

大地震(The Great

Earthquake in

Japan 1891)」(ジ

ヨン・ミルン、ウィリア

ム・キムニモンド・バル

トン編、小川一真写真、

横浜レーンクロウフォー

ド社、一八九二年刊)は、

世界に伝えられた。

編者の一人で帝国大学

教授のシモン・ミルンは

イギリス出身の鉱山地質

学の専門家。明治政府に

招かれた、いわゆる「お

雇い外国人」の一人。地

震学会の創設にかかわ

り、地震計の考案、地震

県図書館に行こう

こんな情報待っている

一八九一(明治二十四)年十月二十八日に発生した濃尾地震の被害の様子を外国人研究者が著した貴重な写真記録集。

岐阜、愛知両県を中心

に甚大な被害をもたらしたこの震災の様子は、同

書により国内のみならず

の現地調査、人工地震の実験などを行い、世界の地震研究に多大な功績を残した人物である。

本書に収録された写真は、震源地の根尾谷に出現した断層崖(がい)、

名古屋の紡績工場や笠松

の醸造場の倒壊状況、長

濃尾地震の写真記録

1891年の日本の大地震



良川、木曾川に架かる鉄橋などの被害状況を中心、後の人々の暮らしなどを

撮影した白黒写真約三十枚。

写真は大変精細で、サイズも大判のため、当時の生々しい状況がよく伝わる。また、それぞれの写真に英文の詳しい解説が付いている。

発行部数は不詳だが、所蔵館は岐阜県図書館のほか、国立国会図書館、東京大学、京都大学など国内で十数館程度。

同書には初版と第二版があり、収載写真の内容や枚数に数カ所の違いがある。岐阜県図書館所蔵資料は第二版である。

一九九三(平成五)年に第二版を基にオリシナルに近い複製版が発行され、手軽に手に取ることができるようになった。

世界最大級の内陸地震を世界に知らしめた「1891年の日本の大地震」の中の1ページ